

分野別計画編にいただいたご意見及び市の考え方一覧(11月15日開催分)

No.	担当部	分野	基本施策	委員	内容	市の考え方
1	市長公室	自治体経営	行政運営	肥田野	基本施策31の基本施策の「小牧市が信頼できる市政運営を行っていると思う市民の割合」という指標がわかりづらい。アンケートで尋ねられても市民は答えられないのではないか。	内容が分かりにくいというご指摘ですが、基本施策31の行政運営は他の分野と異なり、市民に直接事業を行うものではないので、アンケート調査に頼らざるを得ません。目的に記載されているとおり「より多くの市民から信頼される市政運営」を目指すことから、こうした指標としていますので、ご理解いただきたいと思います。
2	市長公室	自治体経営	行政運営	肥田野	展開方向3の指標「常に高い意欲を持って職務に取り組んでいる職員の割合」はナンセンスなのではないか。	職員が高い意欲を持っているのは当然だというご指摘かと思いますが、実際どれぐらいか改めて調査し、目標値を高く設定して職員の意欲向上を図っていきたく思います。
3	市長公室	自治体経営	行政運営	肥田野	展開方向4の指標「無駄の無い市政運営が行われていると思う市民の割合」も難しく、アンケートで尋ねられても市民は答えられないのではないか。	答えが出しづらいというご指摘ですが、本来なら「最小の経費で最大の効果の追求」という注釈にあるようなことを、わかりやすくするために「無駄の無い市政運営」という言葉を使っていますので、ご理解いただきたいと思います。
4	市長公室	自治体経営	行政運営	宮脇	職員へのアンケートは今までもやっているのか。新しいものか。アンケートは否定しないが中身が問題である。「信頼できる」とか「無駄のない」などでは「分かりやすい言葉」といっても、わからないだろう。どういう組み立てをするのが大事である。	こういった内容での職員へのアンケートは今回が初めてであります。
5	総務部	自治体経営	財政運営	肥田野	展開方向1に「財源確保」の目的があるが、それに対する手段が消極的である。これで財源が確保できるのか。将来への投資が見えない。	歳入確保には、市税収入をあげるのが一番です。小牧市は企業誘致により豊かな財政を維持しており、今後も企業誘致に取り組みたいと考えています。ここにその書き込みをするか検討したが、他の分野に関連することとして記述しなかったものであります。将来への投資については、市長戦略編でも説明があったようなポイント制度や地域協議会を進めることだと思いますが、歳入と同様、他の分野に関連しており、記述があるので、財政所管の分野でまとめたものであります。
6	総務部	自治体経営	財政運営	宮脇	歳入確保の強化の部分で、達成を図るのは市税収納率だ。しかし、市税収納率は高いところで維持している。これは強化するより維持ではないか。例えば、何らかの誘致をして減税政策をしている時は、減税を差し引いた部分が市税の母数になる。それに対して収納率がいくらになるというように。それとも、もとの税が母体になるか。この収納率の母数は何か。減税政策を行った後の、予定税収額に対する進捗度合いなのか、減税を行う前の数値を持つてくるのか。	この税収納率は、市税の徴収率である。そして予定税収額に対する比率である。
7	総務部	自治体経営	財政運営	宮脇	収納率が展開方向1に対する指標だとすると、非常に範囲が狭いと感じる。	歳入確保の強化において、市民負担の公平性の観点から市税収納率の向上が最も重要であると考えます。

分野別計画編にいただいたご意見及び市の考え方一覧(11月15日開催分)

No.	担当部	分野	基本施策	委員	内容	市の考え方
5	市長公室	自治体経営	—	長田	市民意識調査報告書も配布すべきである。 前回今までの実績を見せていただきたいと言う意見を出したが、それがこの報告書に記載されていると思う。	市民意識調査は、前期の基本計画にて設定した指標の推移を見るため、毎年度調査を行っているものであります。 まちづくりに関する市民意向調査は、今回の新基本計画策定のために新たな観点で調査したものであり、計画案に反映されているため、配布させていただきました。 なお、市民意識調査の結果は、「棚卸しシート」に分野別に整理して記載されていますので、そちらをご覧くださいと思います。
7	総務部	自治体経営	財政運営	上坂	展開方向2「歳出の削減と合理化を図ります」の手段①「コスト意識の徹底と費用対効果の～」について、具体的な取組みはどうか。	指標が検討中となっていることをまずお詫びします。 この指標は「平成25年度当初予算に比べた経常的経費の削減率」としたいと考えています。 具体的な取り組みとして、経常的経費を各部に配分し、各部で分配するようにしています。さらに決算で進行状況を見て、余剰が多ければマイナスシーリングをしていおり、それが各課の「やりくり」に繋がっています。
8	消防署	自治体経営	財政運営	上坂	最近、救急車と消防車が一緒にくる。ガソリンの無駄遣いではないか。	救命活動の実行には、救急隊員だけでは足りません。消火活動をこなしながら救急活動を行うために、119番を受信した段階で指令員が必要と判断した場合、消防車と救急車が出動しています。
9	総務部	自治体経営	財政運営	落合	展開方向2「歳出の削減と合理化を図ります」の手段③「積極的に補助金の見直しを行います。」の「積極的」の意味が分かりかねる。 ボランティアでやりくりしている小さな団体もある。補助金をまとめて削られてしまうのはどうか。消極的ではいけないが、一律で削ってしまてはいけない。	補助金は5年に一度大きく見直しをしています。また、予算編成でも見直しをしています。 必要性があり創設されたが必要性が時代とともに薄れるものもあります。既得権の課題も出てくるのでしっかりと実績をみて評価したいと考えています。 ご指摘を踏まえ、次のとおり手段③を修正します。 【修正案】 手段③ 当初の目的が達成された補助金や公益性の薄れた補助金の見直しを行います。
10	総務部	自治体経営	財政運営	肥田野	展開方向1に「歳入確保の強化を図る」について、さまざま税金があるなかで、法人税住民税の占める割合は大きい。 小牧市は、昼間人口が多く夜間人口の少ない、住民税が入りづらい市である。 ここに記載されるかどうかは分からないが、中間人口と夜間人口の比率を指標としてもいいのではないか。これは意見です。	都市部では昼間より夜間の人口が少ない自治体があり、これが顕著になると税収に大きな影響を及ぼす問題となります。本市においてもこの比率の推移を注視していかねばならないと考えますが、本市でこの比率と税収との関係性を検証していないこと、計画期間5年間の指標になじまないと考えられることなどから原案どおりとさせていただきます。
11	総務部	自治体経営	財政運営	長田	現況と課題の最後に滞納者についての記述がある。市広報の「市の財政について」の記事では「財政は健全だ」となっており、計画書の現況と課題のような記述は無かった。 この現況と課題を広く市民に知らしめる意味で広報にのせて滞納額の縮減をしてはどうか。	PR等に取り組んでいきたいと思います。